

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 生活安全グループ

基本事項	事務事業名	消防施設整備事業				整理番号	0602	
	根拠法令等	消防組織法		実施を義務付ける規定	○あり ●なし			
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第4章 安全・安心と安らぎの環境を整える		予算目	9 款 1 項 3 目	○継続 ●新規		
		節 第4節 消防・防災の推進		事業区	施設整備			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	消防団が災害時に迅速に対処できるよう年次計画により一定期間で消防自動車を更新するとともに、各地区の消防水利を確保するため、防火水槽等の設備を整備する。				計画期間	始期 年から 終期 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	火災等の災害に迅速に対応するため、消防車両については、20年経過した車両を目的に更新を行う。また、防火水槽及び消火栓については、島原市の消防水利の基準数(1, 340)に達するまで新設していく。						
	目的達成のための手段・方法	耐用年数間近の第13分団消防車両の更新、地元から要望があった有明町弘山地区の防火水槽の更新、湊新地町の防火水槽の新設を実施						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	22年度	23年度	24年度	
		①消防車両の更新 平成29年度までに計画的に計「12台を更新する。 ○H24 1台 ○H25 2台 ○H26 2台 ○H27 2台 ○H28 2台 ○H29 3台		目標	台	2	0	12
				実績	台	2	0	1
		達成率	%	100.0		8.3		
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	②防火水槽の新設 消防水利の基準数を満たすまで毎年2基程度を新設する。		目標	基	1,340	1,340	1,340	
			実績 (累計)	基	1,229	1,233	1,235	
			達成率	%	91.7	92.0	92.2	
	①消防車両の更新		目標	台	2	0	1	
		実績	台	2	0	1		
		目標	基	2	2	2		
		実績	基	2	4	2		
事業費等の推移	年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		4,448	37,501	44,126	2,193	28,745	49,830
	財源内訳	国県支出金		8,274			2,000	
		地方債		18,800	3,100		25,400	
		その他						
		一般財源	4,448	10,427	41,026	2,193	1,345	49,830
	②従事職員給与費 b1×b2		715	2,149	2,150	0	1,455	0
	従事職員数(人) b1		0.10	0.30	0.30	0.00	0.20	0.00
	職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236	7,277	
事業費合計 ① + ②		5,163	39,650	46,276	2,193	30,200	49,830	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 市民の安心・安全を守るためには消防施設等の整備は必要である。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 法律で消防に要する経費は市町村負担となっている。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 消防水利の充足数を満たすため、及び消防車両の劣化のための更新のため適切である。	A
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 消防水利の充足数を満たしていない地域が一部ある。	B
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 事業内容を見直す事業内容ではない。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを縮減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 消防水利の基準等があり、見直す余地はない。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 統合する事業はない。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 現状のままが最適である。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 市内全域を考慮して事業を行っているため、見直しの余地はない。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
判定評点平均 A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.90

◎ 総合評価

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない)	判断理由 火災等の災害に迅速に対応するため、消防車両の更新、防火水槽等の消防水利の新設は不可欠なため、年次計画を立てて行う必要がある。
	<input type="radio"/> B 改善・見直しを行う	
	<input type="radio"/> B1 事業規模の拡充	
	<input type="radio"/> B2 事業規模の縮小	
	<input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し	
<input type="radio"/> B4 その他の見直し		
<input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更)		
<input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)		
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 防火水槽等の消防水利については、水利の基準を満たしていない地区があるが、地権者の協力が必要なため、なかなか水利の設置が進まない地域がある。	
*総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 *本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	